を把捉し、自己の存在の確固不拔なる根抵を覺得して眞實に生きんとする根本要求が眞の宗教的求道心である。宗教とは斯る人間最深の要求に答へんとして起つた人生の一大現象である。

自分に取つて自己の存在てふことが最も直接であり、同時にそが生きると云ふことが根本の事實である、生きると云ふことは何のために生きると云ふ樣な或る手段のためでなく、實に生きんと希ふ自己本來の要求に基く以外の何物でもない、人道實現のためとか、各自の使命遂行のためとか云ふのは生きると云ふ其事の意味を表明したもので道のために生きると云ふのは道なるものが目的でそを體現するの手段として生くるのでなく、生きる其事が道を求め道を行ずるてふ高尙な意味を持つたものでなければならぬのである。吾々が道を求めんとするのは最も價値ある最も正當合理な最も充實した生き方を要する故にこそ其當然の道を求むるのである。宗教的要求は實に斯る最も直接で最も根本的なる自己其物の確立、大生命の獲得（生存の價値を高め深めそして眞に生き强く生き大きく生きんとすること）を希求する所に起るのである。宗教は只宗教心のためのみ大なる必要がある。

諸種の要求はこの根本要求の滿足を待つて始めて一切が醇化され靈化されて夫れ〳〵の意味と價値とが認められ、そしてそを欣求するに當てその行くべき當然の方途を發見し得て、極めて無理のない自然の努力に依りそを實現し充たし行く一歩々々の上に限りなき感謝と喜びを得るのである。上來宗教的要求なるものゝ性質を述べ終つたので以下更に宗教上の二三要義を述べ、完全なる宗教が具備すべき諸要素に就いて語らう。（未完）

▣接諸大衆と皆在虛空

亮遠

うちあふくみ空のみこころやかなり
われや雲井にいつのほりけん